

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真 1) (表 1) などと文中に記載し、右ページに(写真 1) (表 1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

エントリー学校名：

青森県立青森南高等学校

活動名： ※どのような課題をどのような手法で解決したのか、わかりやすく伝える活動名を記入してください。

主タイトル 学校教育目標達成のために (12文字)

副タイトル 全教員で関わるワークショップ (14文字)

解決すべき課題： ※活動を行う前に、課題や目標をどのように設定しましたか？視点などを含めて記載してください。

- ・学校教育目標から育てたい生徒像の共有を図る必要がある。
- ・総合的な探究の時間は、年度毎に学年が中心となって計画をたてており、分掌の関与が少ない。
- ・教科の枠を超えた指導を実際に行う場合の方法を共有する必要がある。

目標・方針： ※課題を解決するためにどんなストーリーやシナリオを構想して、活動内容を組み立てたのか、記載してください。

- ・生徒の実態を探り、学校教育目標に照らしながら、生徒に身につけさせたい力を共有する。
- ・各分掌学年からなる総探委員会を立ち上げる。
- ・各教科の目標を再考し、他教科と協力して生徒を指導する方法を模索する。

活動内容： ※目標・方針に基づいてどのような活動を行ったか、また、複数の活動を展開した場合はその位置づけや関連性を記載してください。

- ・生徒と教員にアンケートを実施することで実態の把握を行う。
- ・総探委員会で、3年間を見通した総合的な探究の時間を計画する。
- ・全員ワークショップにより問題の共有を図り、解決策を模索する。

活動の成果： ※課題設定に対して、どんな影響、変化あったか、参加者の声など客観的な情報・データとともに記入して下さい。

- ・アンケートをとることで、科学的に分析できた。また、それを元に次のアクションの参考になった。
- ・実働は来年度からだが、柱となる計画を作成することができた。
- ・全員ワークショップの実施により、教員の間に当事者意識が芽生えた。

アピールポイント (アイディアや工夫)： ※3~5つ程度、箇条書きしてください。

- ・全教育活動を通じたカリキュラム・マネジメント
- ・全員ワークショップ
- ・教科横断型授業への模索

令和元年度第1回全員ワークショップ
(求める生徒像の共有)



令和元年度第2回全員ワークショップ
(教科の目標の設定)

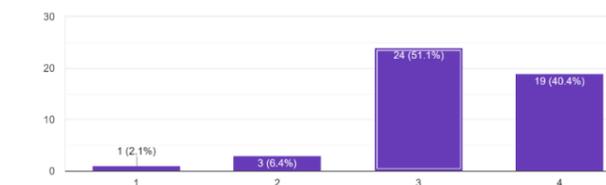


令和2年度第1回全員ワークショップ
(前年度成果と課題の共有)

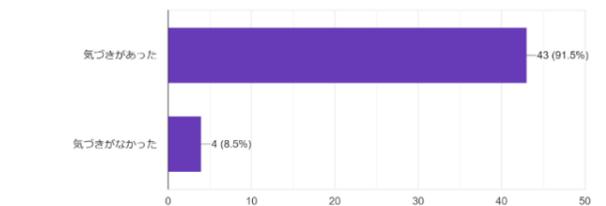


令和2年度第1回全員ワークショップ教員への
アンケート結果

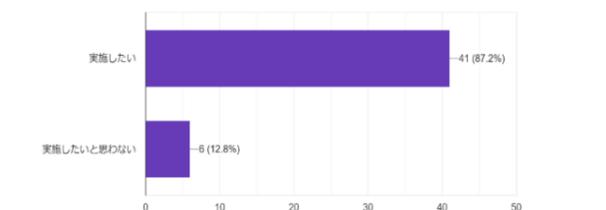
1. 今回の全員ワークショップは、自身の教育活動の質的向上に役立つと思いますか？
47件の回答



2-1. ワークショップで新たな気づきはありましたか？
47件の回答



3-1. コラボ授業や教科間の内容の連携など、教科等連携の取り組みを実施したいと思いますか？
47件の回答



4. 今回のワークショップの感想・ご意見をご記入ください。

- 連携をすることが目的ではなく、そこから何を生徒に学ばせるのかまで議論が深まればもっとよかったと思う。
- 他教科の先生方と意見を共有し合うことで新しい視点を持つことができ有意義な時間となった。”
- 良い意味で好き勝手の発言が許されていたためユニークな考え方に触れることができ有意義であった。また、進行係の独特な話術が場の雰囲気を良い方向に導いていた。
- 教科間の連携授業により幅広い知識を生徒は得られることになるので、生徒の立場からするととても良い取り組みだと思う。しかし、実際にコラボすると教科間の連携が必須になるし、その準備など教師の負担が増えるのかもしれない。
- 実施するにあたって道具を用意することや、何を学ばせたいのか、教科書のどの分野に関わるのかなど、突き詰めていくと難しいのではないかと感じてしまいます。ですが、他の教員とも相談し、一度はやってみたいと思います。
- 全教科の単元配列表を見て、横断できるか考えたことは初めての経験だったのでとても勉強になりました。また、違う教科の先生方と教科書を持ちよって実際に「何を学ぶのか」を話す機会も貴重でした。ありがとうございました。
- 教員側が意図的に行う教科間連携の形も必要であるとは思いますが、授業を通じて、生徒が自ら気付きを持てる教科間連携の存在も、授業においては大きな意味を持つのではないかと改めて感じた。
- カリキュラム・マネジメントの終着点が見えず、今回のワークショップの落としどころが明確に理解できず。カリキュラム・マネジメントのフローチャートが欲しい。